

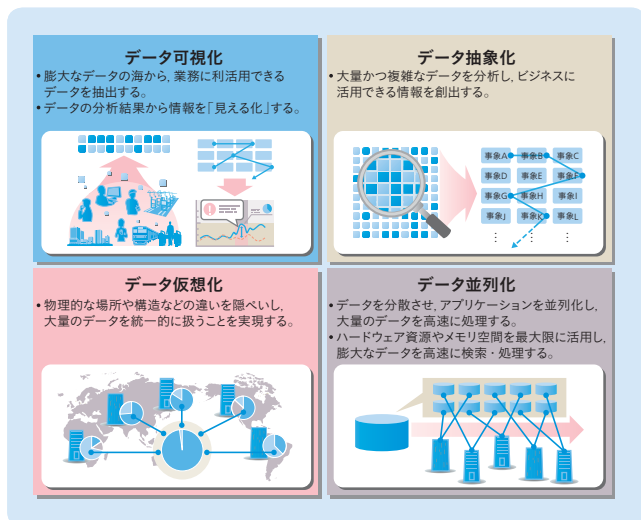
ビッグデータ利活用を支援する データ・アナリティクス・マイスターサービス

企業競争力の源泉がイノベーションや新たな価値創出へとシフトする中、多くの企業がビッグデータの利活用に向けた取り組みを加速している。

日立グループは、ビッグデータから価値ある情報を見出し、リアルビジネスの革新につなげていくため、

顧客の目的や課題を明確化しながらITを用いた数理解析を行うデータ・アナリティクス・マイスターサービスを開始した。

この協創活動を最前線で担うマイスターの3人が、サービス概要とそれを支える技術群Field to Future Technologyについて説明する。



ビッグデータ利活用を支える技術群Field to Future Technology

データ・アナリティクス・マイスターサービス

社会インフラを手がけてきた日立グループは、これまで産業機械や大型設備から膨大なデータを収集し、その保守などに役立ててきました。また、ビッグデータという言葉が注目される前から、大量の実業データとIT (Information Technology) リソースから抽出した知識や付加価値をサービスとして提供するKaaS (Knowledge as a Service) を提唱してきました。こうしたリソースをフルに活用しながら、お客様と共にビッグデータから新たな価値を創出する取り組みがデータ・アナリティクス・マイスターサービスです。

これを推進するため、数理解析とITや実務の知識を併せ持ったビッグデータ利活用に関する専門家であるマイスターと、データ分析に関する技術者・研究者、システム構築・運営に携わるコンサルタントなどを含め、200人超の事業体制を整備しました。

独自の手法やテンプレートを駆使した協創プロセス

ビッグデータの利活用では、ビジネスとデータ分析の結果がどう関係するかの試行実験をいかに効率化できるかが重要なポイントです。そこで私たちマイスターは、明確なビジョンをお客様と共有し、十分にその業務を理解したうえで目標達成に向けた仮説を立案します。そして必要な

データを収集し、数理解析による仮説検証を行い、有効性を確認してから本番システムに適用していきます。

各フェーズでの協創プロセスを円滑化するため、Exアプローチやビジネスダイナミクスなどの独自の手法を駆使していく点も大きな特長です。場合によっては、最初は適用しやすいスモールスタートから始め、投資対効果を注視しながら徐々にスケールアップすることを提案します。

自社技術を結集したField to Future Technology

人間の洞察力和知見をベースとしたマイスターサービスを技術面から支えるのがField to Future Technologyです。これは、ビッグデータ利活用における日立グループのITプラットフォーム技術を体系化し、可視化、仮想化、抽象化、並列化の4分野に整理したものです。例えば、Hitachi Advanced Data Binder プラットフォーム^{※)}は、既存のバッチ処理を飛躍的に高速化することで、データマートレスで高速検索やDWH (Data Warehouse) を実現します。また、各種センサーやソーシャルネットワークから発信される幅広い情報に対して、データ特性に応じた高度な情報処理を実現するのがvRAMcloud ソリューションです。

こうした高付加価値なITプラットフォームとマイスターサービスという両輪での取り組みに対し、すでに多くのお客様から反響がありました。これから分析活動を支援するツール群やテンプレートをさらに強化し、ビッグデータ利活用への期待により多く応えていきます。

※) 内閣府の最先端研究開発支援プロジェクト「超巨大データベース時代に向けた最高速データベースエンジンの開発と当該エンジンを核とする戦略的社会的サービスの実証・評価」(中心研究者：東大喜連川教授) の成果を利用。



左から、日立製作所 情報・通信システム社 スマート情報システム統括本部 ビジネスイノベーション本部 先端ビジネス開発センタの恵木正史 主任技師、吉田順 主任技師、人見俊太郎 主任技師